

「メディカルアスレチックトレーナー」育成プログラム

MAT
メディカル アスレチックトレーナー

選手をあらゆる角度から総合的に支える
メディカルアスレチックトレーナー (MAT)

医療大学である「明治国際医療大学」が描く未来のトレーナー像

～令和は、アスレチックのみならずメディカル、テクノロジーを融合したトレーナー (MAT) の時代へ～

競技スポーツの普及・発展と共にメディアで広く紹介されるなど「アスレチックトレーナー (ATC)」という言葉は現在一般的となっています。

アメリカではNATA (全米アスレチックトレーナーズ協会) 認定のATCが、選手にとって最善のコンディションをつくり、最高のパフォーマンスに導く役割を担うなど、その資格および地位が確立されています。しかし、日本では、日本スポーツ協会、JATAC (特定非営利活動法人ジャパン・アスレチック・トレーナーズ協会) が発行する資格が普及しつつあるものの国家資格ではなく、はり師・きゅう師、柔道整復師のように明確に決められたものがないのが現状です。

そこで医療系大学の本学では、これまでも西洋医学と東洋医学の融合を進め人々の健康に寄与してきた経験を最大限に活用。医療資格を持ち、選手のパフォーマンス発揮に不可欠な知識をはじめ、スポーツ栄養学や心理学、コンディショニングおよびリハビリテーション、さらに本学オリジナルの体調管理アプリ「MY TRAINER」など最新テクノロジーを駆使した科学的アプローチにより、選手はもろもろ子供から高齢者まで、健康を願う人々をあらゆる角度から総合的に支えることのできるメディカルアスレチックトレーナー (MAT) を育成するプログラムを2019年度からスタートしました。

本学のMAT資格の特長となるのが、鍼灸、柔道整復の医療資格取得を目指す学びと並行し、JATACで習得する学びを含め、4年間で300時間を超える実習を実施。合わせてトレーナー部の活動を通じ各種大会やスポーツイベントで学内外のトップアスリートをサポートするなど数多くの実践を積むことで即戦力として力を磨く点です。東京五輪控え、スポーツへの関心が高まるなかATCへの注目度もアップしています。MATは本学が初めて作った資格でもあり、医療従事者として医療のこと、身体のこと、さらに競技のこと、健康のことを理解した総合的な資格となるよう取り組んでいきます。

メディカル

Medical

鍼灸学科・柔道整復学科の学び。スポーツ栄養学・心理学、脳科学などの知識。



アスレチック

Athletic

コンディショニング及びリハビリテーション。JATACのACT資格取得に必要な知識や技術。



明治国際医療大学が育てるアスレチックトレーナー

フィールドワーク

Fieldwork

学内外での300時間を超える豊富な実習で経験値がアップ。



テクノロジー

Technology

ウェアラブル端末やアプリを活用した情報収集とデータ分析・解析、適切なフィードバック。



“最新テクノロジーとの融合” 東洋医学の経験を科学の力でサポート



お問い合わせ

入試事務室 ☎0771-72-1188

〒629-0392 京都府南丹市日吉町 <https://www.meiji-u.ac.jp>



悲願の日本一

京都・南丹から、全国、世界へ躍動。

強化指定クラブの選手たちの活躍の軌跡をレポート。



全日本学生柔道優勝大会 女子3人制初優勝

5月の関西学生大会で優勝、3連覇を成し遂げて、臨んだ全日本学生柔道優勝大会(男子68回・女子28回)の女子3人制で、本学女子柔道部が悲願の初優勝に輝きました。

無差別の3人制で争う大会には、全国の予選を勝ち抜いた32チームが出場。1回戦で防衛大学(関東)を3-0、2回戦では立教大学(東京)を1-0で下しベスト8へ進出。準々決勝戦では皇學館大学(東海)に2-0で勝利。続く東京2位の創価大学との準決勝戦は、先鋒の足達実佳選手(柔道整備学科1年生)が優勢勝ち、中堅の西村美穂選手(柔道整備学科1年生)が一本勝ちし、大将戦は林美七海選手(鍼灸学科2年生)が引き分けて2-0で勝利し、前回大会に続き決勝戦へと駒を進めました。

準決勝戦で連覇を目指した早稲田大学を代表戦の末に破った東京女子体育大学(東京)との頂点を狙った一戦は、先鋒の西村選手が引き分け、続く中堅の足達選手が一本勝ちしリードを奪うと、大将戦で林選手が勝利し2-0で初の栄冠を手に入れました。

また、ルーキーながら活躍した足達選手が優秀選手および女子3人制一本大賞に選出されました。

全日本学生柔道優勝大会 結果			
1回戦	vs	防衛大学	0-3
準々決勝	vs	皇學館大学	0-2
決勝	vs	東京女子体育大学	0-2
2回戦	vs	立教大学	0-1
準決勝	vs	創価大学	0-2
初優勝 (明治国際医療大学)			

監督・選手のコメント

■ 小川監督

「チーム一丸となって昨年の悔しさへのリベンジに向けて、高い意識を持って取り組んできた成果だと思います。ここぞという時にチーム全体で戦う雰囲気を作ることができた、まさにチームワークの勝利。チーム発足以来の目標ではありましたが、まさかこんなに早く達成できるとは思っていませんでした。選手たちが本当にかんぱってくれました。これも周囲の支え、応援のおかげだと感謝しています」

■ 刈谷主将

「昨年の悔しさをバネに、みんなで厳しい練習に取り組んできました。今は本当にうれしさでいっぱいです。普段から、どんな時でもチームとして目標を達成するために、一人ひとりが『何ができるか。どう力になれるか』を意識して取り組んできました。だからこそ、試合でケガがあつたりしても、雰囲気が下がるのではなく、その分をみんなで補ってよりいい結果を目指そうという、よりいい雰囲気をみんなで作りだせる強さが今年のチームの強さを支えているのだと思います。ここまで支えてくださった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。応援ありがとうございました」

■ 林選手

「昨年の悔しい思いがあったので、絶対に優勝するという強い覚悟で試合に臨みました。1回戦で古傷を痛めてしまいましたが、勝ちたいという強い思いと集中力で試合中は痛みは感じませんでした。社会人も経験し最年長でもあるので、今後も選手一人ひとりの力はもちろん、チームとしての強さを引き出せる雰囲気づくりや、アドバイスをしながら勝ち続けられるようチームを引っ張っていければと思います」

■ 西村選手

「私の初戦となった2回戦は緊張しましたが、それ以降は“勝ちたい”という気持ちがかんぱり出てきて、いつも以上に積極的に戦えました。大将で挑んだ準々決勝戦はプレッシャーのかかるなかで、冷静に試合を動かし勝ち切ることができ、すごく自信になりました。今後も高い目標をもって、しっかりと取り組んでいきたいです」

■ 足達選手

「先輩方のお陰もあり、全国大会でしたが緊張はありませんでした。入学当初から、今大会でのリベンジを目標にかかげ、学年関係なく高い目標を共有させてもらっており、本番でも気後れすることなく力を出し切ることができました。常に高い意識を持って取り組むことができたことが、今日の戦いにつながっていると思います。今後も、気を緩めることなく、次の目標に向かってチーム一丸となって挑んでいきたいです」

女子柔道部

チーム一丸。1回戦から総力戦で勝利をつかんだ



- 第28回全日本学生柔道優勝大会
- 三吉桃子(鍼灸学科3年)
 - 林美七海(鍼灸学科2年)
 - 上田莉圭(鍼灸学科2年)
 - 丸山佳代(柔道整備学科2年)
 - 西村美穂(柔道整備学科1年)
 - 足達実佳(柔道整備学科1年)
- 監督 小川壽清
部長 吉田勲生
主将 刈谷美咲(看護学科3年)
主務 中山さつき(看護学科2年)

大会結果

- 5/26(日) 第27回関西学生女子柔道優勝大会
女子団体戦3人制(1部) 優勝(3連覇)
- 6/22(土) 第28回全日本学生柔道優勝大会
女子団体戦3人制 優勝(初)
- 7/7(日) 第14回近畿ジュニア体重別選手権大会
48kg級 出場 中山さつき(看護学科2年)
63kg級 2位 足達実佳(柔道整備学科1年)
78kg級 3位 西村美穂(柔道整備学科1年)
78kg超級 3位 上田莉圭(鍼灸学科2年) / 出場 泉沙希(柔道整備学科1年)

陸上競技部 男子ハンマー投で若山、 田村選手が日本選手権初出場



初出場の日本選手権で9位と力投した若山選手

男子1部昇格を目指した関西インカレは、2部総合8位、投てき種目が気を吐いたフィールドの部で2位という結果となりました。学生個人選手権では、若山哲也(柔道整備学科3年)、田村啓斗(鍼灸学科3年)の両選手が4、8位に食い込み前回に続くダブル入賞を果たしたほか、仲西隆世選手(鍼灸学科4年)が自己ベストで9位と健闘しました。若山、田村両選手は、6月27日から福岡・博多の森陸上競技場で行われた第103回日本陸上競技選手権大会に初出場。雨天の難しいコンディションのなか、若山選手が9位、田村選手が16位と力投しました。

また、西京極陸上競技場で開かれた西日本インカレでは、男子棒高跳で藤川昂琉選手(鍼灸学科3年)が自己初の5m00をクリアし8位、女子800mではルーキーの長沼明音選手(看護学科1年)が5位、同砲丸投で山本怜奈選手(柔道整備学科2年)が6位と3選手が入賞を果たすなど活躍しました。

大会結果

- 5/9(木)・10(金)・18(土)19(日) 第96回関西学生陸上競技対校選手権大会(関西インカレ)
男子 総合8位(50点) フィールドの部2位(50点)
棒高跳:⑥4m60 筒川昂琉(鍼灸学科3年) / 砲丸投:①13m66 小松将弘(鍼灸学科3年) ②12m90 仲西隆世(鍼灸学科4年) / 円盤投:⑦39m49 天野大輝(柔道整備学科3年) ⑧39m15 小松将弘(鍼灸学科3年) / ハンマー投:①60m98* 大倉新 田村啓斗(鍼灸学科3年) ②60m77 仲西隆世(鍼灸学科4年) ③58m48 小松将弘(鍼灸学科3年) / やり投:④63m22 金川陽亮(教養教育学科3年) ⑤63m12 堀見拓也(教養教育学科2年)
女子 総合11位(21点) フィールドの部7位(15点)
800m:②2分14秒82 西嶋希京(鍼灸学科3年) ③2分18秒16 長沼明音(看護学科1年) / 砲丸投:④13m69 山本怜奈(柔道整備学科2年) / 円盤投:⑦38m08 内田沙里(柔道整備学科2年) / ハンマー投:③50m15 雷部春月(鍼灸学科2年) ⑦48m43 内田沙里(柔道整備学科2年)
- 6/7(金)~9(日) 2019日本学生陸上競技個人選手権大会
男子ハンマー投④63m19 若山哲也(柔道整備学科3年) ⑥61m36 田村啓斗(鍼灸学科3年)

PRESS 女子サッカー部 存在感を示す春季リーグ5位



強豪がそろい1部で存在感を示す5位と健闘

2019年度関西学生女子サッカー春季リーグ(1部)は、3勝2敗2分け(勝点11)の5位(昨年度は6位)となり強豪がそろい1部残留が決まりました。2017年秋季リーグから1部リーグでプレーする本学女子サッカー部。順位は5位ながら、昨年度の春季・秋季リーグでは、それぞれ17、13点だった失点を優勝した大阪体育大学に並ぶ5点に抑えるなど健闘。中村貴史監督も、「今季は精神面も安定し、上位校相手でもゲーム内容的にも最後まで崩れることなく戦い抜くことができたと思います」と振り返ります。続く第41回皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権の京都府予選は順当に勝ち上がり大会3連覇を達成。続く関西大会は、1回戦でINAC神戸レオンチーナ(兵庫県4位)に2-1で惜敗し本戦出場を逃しました。後半戦は、3年連続出場のかかる日本インカレの予選を兼ねた秋季リーグでの活躍が期待されます。

大会結果

- 5/5(日)~6/16(日) 関西学生女子サッカー春季リーグ(1部)
5位 勝ち点11 3勝2敗2分け <昨年度6位>
- 7/14(日)・15(月祝) 京都AFカップ2019第15回京都女子サッカー選手権大会
兼第41回皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権大会
優勝(3年連続3回目)
- 8/25(土) 第47回関西女子サッカー選手権大会
兼第41回皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権関西大会
1回戦 INAC神戸レオンチーナ 2-1 ●

女子剣道部 市瀬選手が都道府県対抗で活躍



市瀬未季(看護学科2年)

市瀬未季選手(看護学科2年)が都道府県対抗の代表に選ばれるなど活躍したものの、関西・西日本インカレなどで上位進出を逃した女子剣道部。前半戦を終え、13月に遠征、練習試合を中心に強化を進め、チーム力がぐっと上がったと感じることができましたが、同時に結果にこだわりすぎるあまり負けることを怖がり、それが試合の結果に出てしまいました」と水谷監督は振り返ります。勝負の後半戦に向け、「多くの方にお力添えをいただきながらチーム力の向上、攻めの強化を行っていききたいと思います」と気合を入れます。チーム力は確実に向上しており、水谷監督も「最近では、他校の先生方には明治さんは元気があつていいねとお褒めの言葉を頂戴することが多くあります」と言い、「本学らしい攻めに攻め勝つ剣道で、先鋒から大将まできっちりつなぎ、チーム全員で全国大会への切符をつかみ取れるようにしていきたいです」と力強く抱負を話しました。

大会結果

- 4/14(日) 第11回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会京都府予選会
優勝 市瀬未季(看護学科2年)
- 5/19(日) 第四十九回関西女子学生剣道選手権大会
ベスト32 西原好実(看護学科3年)
- 5/25(土)・26(日) 第三十四回西日本女子学生剣道大会
1回戦 鹿屋体育大学 1-1(代表戦) ●
- 7/13(日) 第11回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会(京都府代表)
1回戦 鹿児島 2-0 ● (市瀬:次鋒 引き分け)

PRESS 男子バレーボール部 春季リーグで2部8位



2部でも存在感を示した浅草選手。秋季リーグでの活躍に期待

2部昇格後最初のリーグ戦となった春季リーグ戦は、上位校の壁に阻まれ勝ち星をあげることができず8位。この結果、3部に降格が決定したものの、個人技術ランキングの総得点、アタック決定本数の部でエースの浅草大羅選手(鍼灸学科4年)が1位を獲得するなど活躍しました。上位チームとの差は感じつつもリーグ5、7位の神戸学院大学、佛教大学とは3-2のフルセットに持ち込むなど健闘。秋季リーグ戦でも再昇格に向け明るい材料も見られました。

大会結果

- 4/7(日)~5/19(日) 2019年度関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦(2部)
8位 0勝7敗 3部降格
- 6/27(木)~30(日) 第45回西日本バレーボール大学選手権大会
予選グループ戦 突破/決勝トーナメント戦 2回戦進出